

# 1. 評価報告概要表

評価確定日 平成21年5月11日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2276600349		
法人名	有限会社ナチュラル・ライフ		
事業所名	グループホーム香寿		
所在地 (電話番号)	磐田市平間1259-1		(電話) 0538-66-0400

評価機関名	静岡県社会福祉協議会		
所在地	静岡市葵区駿府町1-70		
訪問調査日	平成21年1月26日		

## 【情報提供票より】平成21年1月15日

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4 月 27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 7 人 非常勤 13 人, 常勤換算	6.5 人

### (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄筋造り	
	2階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(150,000円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:2年)
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	600 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要(1月15日現在)

利用者人数	18 名	男性 1 名	女性 17 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名
要介護3	9 名	要介護4	5 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおつ内科・小児科 たかやなぎ歯科		
---------	-------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR 豊田駅から車で南へ15分、広い畑の一角に開設6年目を迎えたホームがある。台所・食堂・ソファや小上がりのある居間からは、四季折々の作物と空が広がる。職員は、運営方針や理念に添ったサービスを心がけ、言葉かけや態度からもその実践が伺える。設立時からの利用者も重度化し、大半が要介護度3以上の利用者であるが、職員は、利用者一人ひとりの残存能力を活かし、穏やかな暮らしを支えている。今後、地域との交流、地域への還元が期待できる事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホーム内の清潔や衛生、注意が必要な物品の管理が課題となっていたが、改善に取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で取り組み、管理者がまとめた。項目内容の受け止め方が職員個々に違い、難しいとの感想があったが、評価の必要性は理解している。自己評価に取り組むことで、課題が明確になり、意識してケアにあたることができたと捉えている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	自治会長、利用者家族、市担当職員等の参加により開催している。ホームの現状報告の他、その時に必要な案件を取り上げ、個人情報に配慮しながら意見交換している。直近の会議では防災についての議題を挙げ、状況や課題を確認し、さらに次の会議の際、防災訓練の見学を行なうなど、具体的な課題改善への取り組みにつなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	電話や訪問時などの機会を捉え、細かいこと、言いにくいことでも話してもらえるように声をかけている。また、介護相談員を受け入れ、率直な意見が出せるよう配慮している。相談や苦情は解決に向け会議で話し合い、職員間で共有している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	隣接する住宅が無く、身近な関わりが持ちにくいのが、自治会に加入し、散歩中の挨拶や、地域の祭典への参加等交流に努めている。今後は、ボランティアの受け入れも検討しているため、保育園や小学校等への働きかけや、地域での認知症の勉強会開催などにも取り組まれない。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「尊厳あるその人らしい穏やかな生活」という法人の理念に加えて、事業所独自のケア理念を、職員で考え作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に掲示し、常に確認している。また、具体的に10項目のケア目標として表し、実践に取り組んでいる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧物は自治会長が持参してくれるが、隣接する住宅が無く、回覧板等のやり取りは行われていない。散歩中での挨拶や、地域の祭典への参加等、交流に努めているが、今後は、行事への参加に加えてボランティアの受け入れ等を行っていきたいと考えている。	○	地域と関わるきっかけ作りとして、ホーム行事への招待や、認知症勉強会の開催など、ホーム側からの積極的な働きかけにも取り組まれない。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価による振り返りと課題の明確化、外部評価における客観的視点の重要性を認識し、全員で取り組み、管理者がまとめた。前回評価の課題についても、ホーム内の清潔や衛生、注意が必要な物品の管理について即改善に取り組んだ。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に一度、三地区自治会代表、市長寿推進課職員、家族代表、職員の参加により開催している。直近の会議では防災についての議題を挙げ、状況や課題を確認し、さらに次の会議の際、防災訓練の見学を行なうなど、参加者の声をサービス向上に活かしている。	○	運営推進会議の会議録は、後から確認した時に内容が分かりやすいように記述を工夫されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を訪ねたり電話連絡等を頻繁に行い、情報交換やアドバイスを受けるなど、関係作りを積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	「香だより」を発行し、初詣や誕生会の様子等、写真を添えて伝えたり、ホームでの暮らしぶりは、訪問時や電話等で報告している。金銭管理に関する書類は月一度送付し、家族との接点を多く持つよう心がけている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「香だより」発送時や、電話や訪問時などの機会を捉え、何でも言ってもらえるよう促している。また、苦情相談窓口担当者を配置し、重要事項説明書に明記して説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内部の異動が続いたが、現在は落ち着いている。利用者への影響が出ないよう、職員のメンタル面にも配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の必要性を認識しているが、研修参加の機会は少ない。内部研修の充実を図り、業務を通じて、必要な知識や技術、心構えを学べるように取り組んでいる。	○	研修計画を作成し、職員の経験や習熟度に応じた研修の機会を確保されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の同業者による勉強会に参加し、ネットワーク作りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族の困っていること、不安なことなど数回の面談を繰り返しながら把握に努め、必要なサービスにつなげるよう利用者本位の視点を大切にしている。見学や遊びに来てもらい、短時間でも一緒に過ごす時間を設け、納得して利用ができるよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から食事の準備や片付け、洗濯物をたたむ手順や、味付けのコツを教えてもらうなど、利用者を尊重している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を採用し、利用者の思いや意向の把握に全体で取り組んでいる。職員は利用者の表情や動きから、やりたいこと、できること、興味を持つことなどを確認し、記録し実践している。家族からも必要に応じ情報を得ている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員会議で意見を出し合い、目標を設定し、介護計画を作成している。訪問時に家族に対して説明を行い同意を得ているが、利用者・家族からは、日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き、計画に反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の現状把握に努め、必要に応じて見直しを行っている。介護計画の実施状況、関わり方、評価等の内容が記録から分かりにくい。	○	記載内容、見直しに至る経過等を分かりやすく記録するために、様式を工夫するなど、職員で意見を出し合い、検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診や理美容への同行を行っている。でき得る限り個々の対応に心がけ、医療機関とは24時間対応の連携体制を整えている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、利用者のかかりつけ医の治療が受けられるよう、受診は家族が付き添うようにしている。必要に応じて、通院介助も行い、情報の共有に努めている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用者・家族に説明している。利用者・家族、主治医、看護師、スタッフと十分な話し合いを行う機会を持ち、連絡を取り合い情報を共有しながら介護することを明示し、関係者全体で方針の統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシーを損ねないように、利用者の話を十分に聞き、言葉かけや対応を丁寧に行っている。記録の取り扱いにも注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑に出たり、テレビを見たり、横になったり、おしゃべりしたり、利用者の状況を見ながら、一人ひとりのペースに合わせた支援・見守りを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りの中で、食事の準備や片付け、洗い物などそれぞれができることを役割分担している。職員は必要に応じて作業を一緒に行ったり、食卓を囲んで支援しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の習慣に近づけ、入浴したい日、時間に入浴できるよう配慮している。入浴に負担や抵抗感のある利用者には、タイミングを見計らって誘ったり、清拭を行うなどその人に合った対応をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備や片付け、掃除など身につけていることや畑仕事、花の手入れなど好きなことを、希望や有する力を踏まえて、利用者の生き甲斐、楽しみに結びつくよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や個々の体調に合わせて、畑仕事や散歩、買い物、ドライブなど集団での外出が多い。利用者の希望があれば個々に応じる体制を用意している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開錠している。利用者一人ひとりの特徴や癖を掴み、見守りに努め、または共に出かけるなど鍵をかけない支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を実施している。運営推進会議でも、災害対策について議題に取り上げ、参加者から意見を出してもらおうなど、地域との協力体制に向けた理解へつなげている。	○	様々な場面を想定した訓練の実施と、マニュアル作成等による災害時対応手順の確認に取り組まれない。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人本部で作成した献立を使い、必要に応じて変更するなど、摂取量や栄養バランスに配慮している。摂取量を記録し、水分は、食事や副食、排泄等を考慮し随時補充している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から、畑や神社、民家、広い空が見渡せる。食堂と接しながら、テレビのコーナー、小上がりの場所などが視線を遮り、くつろげる場所となっている。浴室、トイレ共に使い易く落ち着いた造りとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理たんすやハンガー掛け、敷物、ラジオ、時計や小物など使い慣れたものを持ち込んでもらい、一人ひとりの好みに応じて配置し、居心地の良い居室作りを支援している。		